

## 校長室だより～和光高校今昔 第45号 H27.3.13

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

### 卒業記念品にまつわる話

3月13日に予定されている卒業証書授与式では、第41期生174人が巣立っていく。昨年までの同窓生総数が1万542名であったのでそこに41期生が加わることになる。1期生の方々の多くは申年、来年は還暦を迎えられることとなる。

さて、この時期の式典では未だ寒い体育館を暖める新兵器「ジェットヒーター」の活躍が目覚ましい。実は6基あるこの器具は卒業生から贈られた「卒業記念品」なのである。この制度は最近流行らなくなったようだが、新設期の学校にとっては大変貴重なプレゼントであり、式においては校長先生が「大切に使用させていただきます」と常套句を述べられるがかなり本心に近いと考えられる。和光高校40年の歴史を刻むその品々を探してみることにする。

#### 1 校章のレリーフ

学校の正面玄関入口に掲げられているのが、17期生（1990年）記念品の校章である。聞くところによれば川口の老舗鋳物業者に発注したもので、発想とその出来の素晴らしさに感動を覚える名品である。学年主任は保科裕先生だが、岡野義彦（5期）、増田義浩（6期）と本校OBが二人もそろそろ学年団である。まさに愛校心の象徴がこの逸品に結びついたのだろう。20年以上にわたって和光高校の看板として来客をお迎えしている。



#### 2 日時計

ちょうど校章と向かい合うように3年1組の教室前の芝生に設置されているのが、4期生（1977年）記念品の日時計である。場所は何回か移動しているが当然今でもその機能は失われていない。学年主任関根豊明先生のお洒落なセンスが窺（うかが）える。次の学年から東工大進学者（原田恒司先生：現在九州大学理学部教授）を輩出するなど実は理系に強い和光高校の象徴となっていたのだ。



### 3 時計塔



実は左の写真には3つの記念品が含まれている。タイトルの時計塔は6期(1979年)、掲示板が8期(1981年)、そして背景の檜の記念樹が11期(1984年)のものである。記念樹はこれ以外にも敷地内に何本も植樹されているが、当時PTA会長の鯨井氏が造園業を営んでおられたので格安で植えていただいたうちの一つである。渉外部長であった緑に囲まれた田園(舎)育ち(栃木県栃木市)の北村先生のたつての希望だったらしい。6期主任・堀江治男先生の時間に対する厳しさと8期担任で広報活動に腐心されていた重田裕子先生のアイデアが品物選びに反映されている気がする。正門に近いこの場所は生徒が登下校に必ず通る場所で、掲示板には生徒募集のためのポスターが掲示されている。

### 4 時計



正門脇の時計塔に加えて、和高会館と体育館にも卒業記念品として時計が据え付けられている。左写真の和高会館のものは23期(1996年)、防災拠点として建て替えられた2代目和高会館完成の翌年に相当する。

体育館は19期(1992年)、永年使用されていたものが故障しており、おそらくバレー部顧問の高井学年主任の意向があつてのものだろう。それぞれ正確に時を刻み、時間を大切にする和光高校のシンボルとなっている。



### 5 校歌のプレート



体育館の正面右壁面を飾るのが「校歌」である。14期(1987年)の記念品である。このころは吹奏楽部の生演奏で高らかに校歌を歌い上げた。以前にも述べているが、創設期の先生方によって作成された詞は、40年以上経過しても色褪せず心に響いてくる。この学年に所属しており、こよなく校歌を愛した岡野義彦教諭の発案らしい。やはりOBはどこか違う。

## 6 トロフィーケース



事務室玄関脇に飾られているトロフィーは、20期（1993年）寄贈の立派なケースに収められている。柔道全国優勝や放送部の盾やトロフィーが所狭しと飾られている。ここ数年は変化なくさびしい限りだが、近い将来もう一度部活動隆盛期を迎え、置き場所に困るくらい頑張ってもらいたい。さしあたっては陸上部の活躍に期待を寄せている。

さて、このほかにも冒頭に述べたジェットヒーターやテントなど極めて実用性の高い品物が存在する。なかなかモノが揃わない創設期にあっては、切実な願いが記念品に託されたこともあった。体育館舞台の幕や、遮光カーテン、屋外のテントなど様々な行事で重宝した。また、数多くの記念樹は学校の緑化に加え、生徒たちの「癒し」となり落ち着いた風景を醸し出している。私自身も2回（9期と12期）卒業に携わっているが、最初はグラウンドの「アラ砂」で2回目は「校舎放送施設」、今となっては形として残っていないもの間違いなくその時々には有用な記念品であったはずだ。

後輩たちに受け継がれるものは記念「品」ではなく「心」だとかねてより思っている。先達の思いが込められた記念品を探ることで、41期生の卒業の餞としたい。

